第９回北海道広域化推進プラン策定に関する検討会
開催概要

日　　時　令和５年（2023 年）１月 31 日（火）13 時 30 分から 14 時 40 分
開催方法　第二水産ビル４Ｇ会議室及び Web 会議
出 席 者（敬称略）
【構成員】

宇野　　二朗	座　長	北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
構口　　学	構成員	木古内町建設水道課長
田中　　治雄	構成員	旭川市水道局上下水道部水道施設課長
谷川　　竜也	構成員	谷川竜也公認会計士事務所代表
西原口　高大	構成員	札幌市水道局総務部企画課長
原田　　暢裕	構成員	中空知広域水道企業団企業局営業課長
松井　　佳彦	構成員	北海道大学大学院工学研究院教授

【オブザーバー】

牛島　　健	北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所地域研究部 地域システムグループ研究主幹
長坂　　晶子	北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場森林環境部 環境グループ研究主幹
森野　　祐助	北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所地域地質部沿岸・水資源グループ主査
野宮　　治夫	北海道市長会参事
月山　　裕介	北海道町村会政務部主事
永井　　宏佳	北海道総合政策部地域行政局行政連携課課長補佐
金澤　　直樹	北海道総合政策部地域行政局行政連携課連携係長

【事務局】

名苗　　拓央	北海道環境生活部環境保全局環境政策課水道広域化推進室長
深田　　実昭	同課水道広域化推進室主幹
吉野　　一	同課水道広域化推進室主幹
上野　　洋一	同課課長補佐
鹿又　　保春	同課水道広域化推進室主査
小峰　　健一	同課水道広域化推進室主査
小椋　　智世	同課水道広域化推進室技師

議　　題
　北海道水道広域連携推進プラン（案）について

議事概要

1　開会

2　議題

北海道水道広域連携推進プラン（案）について

資料に基づき事務局から説明

〇意見交換

＜構口構成員＞

・「第４章　今後の広域連携に係る推進方針等」に「広域連携の進め方」が、資料編の P.39 以降にシミュレーション算定結果が明記されているが、今後はこれを基本に各地域の実情に応じた検討が非常に重要。

・道のリーダーシップとともに各地域におけるリーダーとなる自治体の力が重要となってくると思う。「当面の取組」に今後の道の取り組みとして、水道事業の連携が進むように取り組むとあるが、水道事業者への情報共有を継続的に行うことをお願いしたい。

＜田中構成員＞

・プラン策定検討会や地区別検討会議の議論や意見が取り込まれており、流れとしては良いと思った。

・プランに現時点での国庫補助の通知や制度の紹介が掲載されるときっかけとなると思う。

・「当面の取組」に（３）として相談窓口など道が積極的に関与する意気込みを何かしら示すのもありかと思う。協議会の仲介や二者間の調整役（機会の設置）など記載し、一歩足を踏み出せる環境を作ることが必要である。道のリーダーシップを基にプランの成就に向け、行動ができるような手伝いをしたいし、そのような方針を打ち出してほしい。

＜谷川構成員＞

・本編 P. 4 の水安全計画策定状況に令和元年 9 月末現在と平成 29 年度現在の表記があるため確認が必要である。

・本編 P.16 の資金残高のグラフに単位を入れた方が良い。

・本編 P.34 のソフト連携シミュレーションの考察があるが、ア～スの記号を付けると前ページまでとの対応関係がわかりやすいと思う。

・本編 P.40、46 の「浄水場集約ケースの抽出結果」に「シミュレーション結果の修正」とあるが、結果の改ざんとも読めてしまう。抽出したところをシミュレーションしていくという前段階の話であるため、「シミュレーション結果の修正」という書き方は誤解を招くと考えられる。

・本編Ｐ.58 に「人口密度が小さい」とあるが、「人口密度が低い」の方が一般的では。

・具体的に方針等を記載することが難しいと思うが、このエリアから働きかけを行うなどと書ければ良いと思った。

＜西原口構成員＞

・水道業界にいない人でも内容が理解できるものとなったと思う。逆に言うとプランを読んだ

道民が水道業界への大変な危機感を覚えることを心配している。
・ソフト連携、ハード連携以外にも、例えば人材育成の面で研修会の同時開催などをすでに行っているため、さらに強化できればと考える。
・今後プランの改定などがある場合は、そういった別の面からも広域連携について追記できると良いと考える。
・「当面の取組」に具体的な地域名が書けなかったことは仕方がないと思うところだが、できるだけ早い段階で次の一歩を進めてほしい。札幌市としても協力できることがあれば協力する。
・プランを策定して終わりではなく、課題解決に向けた姿勢を見せられたら良いと感じた。

＜原田構成員＞
・地区別検討会議に参加しても、北海道の持つ広域分散型の地域構造が広域連携への消極的な考えに結びついていると感じた。
・検討会議や勉強会では、北海道の特徴を踏まえ、どうアプローチをするか考えていれば教えてほしい。
・「当面の取組」は何年先を指しているのか定かではないが、プランに従っても広域連携はしばらく進まないと個人的には考える。
・これまでの地区別検討会議から考えると、大きなテーマだとなかなか議論が進まないと思う。個別具体的なテーマでなければ議論にならないと感じている。そのあたりをどう考えているか伺いたい。

＜松井構成員＞
・推進方針を示すことを計画という意味のプランと呼ぶことに対しては違和感を持っているが、名称を変更するべきとまでは言わない。
・プラン、すなわち計画に至らなかったということが大きな課題と認識しているが、その認識がプランの本文に滲んでいるようには読み取れなかった。経済効果や可能性については書かれているが、それ以外のところに大きな課題があるように思う。
・資料編のアンケート結果で、広域連携に対してイメージがわかないという回答が多かったが、その理由や解決するためどうするべきか書かれると良かった。

＜宇野座長＞
・「基本方針」では、課題が何なのかクリアに表現した方が良い。具体的には、「シミュレーションの効果を全て見込んだ場合、資金残高の不足額が約 1/2 の 2,500 億円程度まで改善する」とあるが、これを裏返すと 5,000 億円の資金不足が生じるという結果かと思う。今後、（水道事業を）持続可能とするためには、規模感としてそのくらいの資金が足りない恐れがあることを示した上で、全て上手くいくと、少なくとも約半分までカバーできるという見せ方が必要だと考える。
・効果が少ないようにも思えるが、それなりに効果はあるため、資金不足をどうするかという課題認識を打ち出した方が良い。
・「広域連携の進め方」と「当面の取組」の関係はどうなっているのか。（対象と手段がそれぞれの項目に書かれているが、）直接つなげて読んで良いのか。
・「当面の取組」に可能であれば、本編Ｐ.２にある「必要に応じてプランに記載を追加する」

という方針を再度書けないか。検討会議、勉強会以降の流れが見えてくるように表現すると、ＰＤＣＡサイクルが回るため良いと思う。
・検討会議や勉強会の主催は道であると言うことは、道のプランであるためわかるが、どのような人たちを巻き込んでいくことを考えているのか。市町村の首長部局、首長、水道局、民間企業、住民など様々なステークホルダーがいると思う。多くのステークホルダーに理解をしてもらい、推進していくような方向性が垣間見えてくると良い。

＜事務局＞
・「広域連携の進め方」として、ソフト面ではシミュレーションを参考に効果があった業務をイメージしており、効果の高かった業務については地域で検討を促すことで、「当面の取組」にある検討会議の開催につながることを考えている。
・検討会議ではソフト連携シミュレーションの範囲やそれより大きな範囲で情報共有をし、意見交換をする中で具体的な議論を深めていきたい。
・勉強会を開催することで、希望する地域や広域連携の必要性が高い地域で深掘りをし、広域連携につながるような検討を進めていきたい。
・進め方としては、「広域連携の進め方」にあるものを「当面の取組」につなげていきたいと考えている。

＜宇野座長＞
・「広域連携の進め方」と「当面の取組」がつながっていると読んで良いということであれば、希望があったところを推進する以外に、効果がありそうなところや必要性が高そうなところを道から推し進めていくと読んで良いか。

＜事務局＞
・ハード面だと効果があった組合せもあるが、実際に広域連携を希望するかも重要な点と考えている。丁寧に確認しながら検討を続けられるように、進めていきたいと考えている。

＜宇野座長＞
・資金不足についてだけでなく、人材面や技術の承継などについても「基本方針」で触れた方が良いのでは。広域連携で解決するのは金銭面だけでないという理解にもつながるかと思う。

＜事務局＞
・「基本方針」に広域連携に期待するものとして、「担い手への対応」や「水道水を安定的に供給する地域の組織体制の確保」が期待できると記載している。

＜松井構成員＞
・この資料（プラン）を今後使っていくことはないのか。「今後の取組」ではこの資料（プラン）を使わず、他のものを使って情報共有を図ると読み取れる。せっかくこれだけのものを作ったため、利用していく旨を前面に打ち出した方が良い。

＜事務局＞
・当然活用していくスタンスであった。プランを作ったら終わりではなく、地域でおさらいを含め取り扱っていきたい。

＜谷川構成員＞
・地域によって温度差はあると思うが、積極的に取り組みを行いたいという地域はあったか。
・金額面でメリットが出る地域以外にも積極的に行いたいという地域には声かけしていくのか。

＜事務局＞
・取り組みたいという地域をいかに増やしていくのかが今後の課題と認識している。道内でも企業団の発足やソフト連携を行う木古内町のようなところもあり、全くなかった訳ではないが、市町村内の水道事業の計画や経営戦略の作成など作業が重なっていることもあり、今現在、広域連携の検討には及んでいないというのが率直な感想である。プランを契機に検討を深めていければと考えている。
・できるところから行っていきたいと答えられた市町村はいくつもあるが、具体的に何をやりたいかまで検討が深まっていないのが現状であるため、プランができた後も継続して地域の意見を伺いながら進めていきたい。

＜松井構成員＞
・検討に及んでいない地域に対し、情報提供を図りながら理解を深めることはまさに必要なことだと考えるが、それを「検討会議」と呼ぶことに違和感を覚える。課題が目の前にあるから「検討会議」を行うのであって、課題を共有する段階は「検討会議」とは呼ばないのではないか。
・「当面の取組」の（1）が勉強会であり、（2）が検討会議となるのではないか。どのような経緯で名称を考えたのか。

＜事務局＞
・確かに一般的な考えでは、勉強会の方が軽いと考えるかもしれないが、趣旨としては勉強ということでより深く検討することを勉強会に込めている。

＜松井構成員＞
・勉強会が深掘りという意味だとは理解している。
・道の立場ではこれから検討が必要という意図で検討会議と名付けたと思うが、参加する方々からすると果たしてそうなのかと思った。

＜事務局＞
・近いうちに再度アンケート調査を実施し、具体的にどのようなことを行いたいか、課題は何か、なぜ進まないのかなど把握させてもらい、検討会議、勉強会につなげていきたい。

＜構口構成員＞
・北海道の地域性として、広域連携は多分できないだろうというイメージを持っていると思う。

木古内町は知内町とたまたま平地で隣接している地域であったことで、共同委託を進めることができたと考えている。

・一番問題となるのは、水道料金の関係である。一般会計からの繰り入れを行いながら、経営している自治体がかなりあると思う。木古内町でも仮に 50 年先を見込んだとき、施設の改修等を行った場合、かなり概算ではあるが、水道料金が３倍以上となる検討結果となったことがある。施設の維持管理を本来しなければならないが、３倍の水道料金に値上げできるかというと、住民感情的にもほぼ不可能である。

・いまいち各自治体で現実味が感じられない結果が（プランに）出ていると思う。

・今回シミュレーションなどを通して、推進方針ができたと思う。これはあくまで北海道の方向性であるため、各圏域別の検討が今後重要だと思う。

・検討するかは各自治体の考え方が大きいと思うが、水道事故が毎日のように発生している現実を考慮すると、地域にあった検討会議、勉強会を道がリーダーシップを取って実施していくことが必要と考える。

＜事務局＞

・地域を回っていると料金改定を控えており、シビアになっている事業体もあった。一般会計から繰り入れを行えば、それほど水道料金を上げずに済むかもしれないが、それがいつまでできるのか、住民にも理解してもらいながら適正に料金を上げていくにはどうしたら良いのかがこれから問題となっていくことだと考えている。

・道で行ったシミュレーションは一定の条件で行ったものではあるが、単独の自治体でシミュレーションを行うことも難しいと思うため、（プランを）一つの資料として今後の検討を深めていけるよう取り組んで参りたい。

＜オブザーバー　道総研　牛島主幹＞

・我々の研究は規模の小さい、地域で運営しているような水道を中心に行っている。

・今回の成果を踏まえて、小さい規模の水道をどうしていくか引き続き検討していきたい。

＜オブザーバー　市長会　野宮参事＞

・せっかくまとまったプランであるので、各水道事業の担当者が直に触れられる機会を作り、検討を進めてほしい。

３　閉会